第民家宝 增補曆象考索 大坤

5
~~子~~又
540
2

門二級5
號540
卷2

增補曆の抄大成下目錄

一　没日　滅日の事　四丁ノウラ
二　日蝕月蝕の事　四丁ノウラ
三　社日の事　四丁ノウラ
四　三伏日の事　五丁ノウラ
五　彼岸の事　六丁ノウラ
六　臘日の事　六丁ノウラ
七　節忌日の事　七丁ノウラ

八　往亡日乃る　七丁ノウ
九　血忌日のる　八丁ノヲ
十　厭日厭對日うくの事　八丁ノヲ
十一　受難日ハる　八丁ノウ
十二　九坎日乃る　九丁ノヲ
十三　復日の事　九丁ノヲ
十四　重日ハる　九丁ノウ
十五　禹舍日乃る　九丁ノウ

河村藏書

十六　八専七月九月六月ハ事　十丁ノヲ
十七　又墓日ハ事　十丁ノウ
十八　厳下食日乃る　十丁ノウ
十九　時の下食ハ事　十丁ノウ
二十　天煞日うくる　十丁ノウ
廿一　百鬼夜行日のる　十丁ノヲ
廿二　五日ハ事　十丁ノヲ
廿三　滅門方猫狼籍日ハ事　十丁ノウ

廿五	羅刹日なり	十二ノウ
廿六	其雲日は事一	十三ノウ
廿七	金剛罪日なり	十三ノウ
廿八	八専日のより分まは日は事一	十四ノウ
廿八	伐日なく事一	十五ノウ
廿九	天火地火なる分赤なり支	十五ノウ
三十	天恩日なり	十五ノウ
三十	天赦日は事一	十六ノウ

三十一	母倉日なり	十六ノウ
三十二	月德日なく事一	十七ノウ
三十三	日遊神は方のより	十七ノウ
三十四	洗頭日なく事一	十八ノウ
三十五	抱卵日なり	十九ノウ
三十六	男時人神は事一	十九ノウ
三十七	毎日の人神のより	十九ノウ
三十八	又月九月といむべき事一	二十ノウ

第　大明日月さしのゆ　九丁ノウ
第一　曆術天にたぐへざるゆ　九三丁ノウ
第二　日月若亟と論どるゆ付中星法事　七三丁ノウ
第三　若亟不二乃事　七五丁ノウ
第四　十方位去はるゆ　九七丁ノウ
第五　淳風本法事付氣朔ゆ　九七丁ノウ
第六　日と月とひて徳と月ゆる事　三十丁ノウ
第七　神といのうまて利生とう所ゆ　三十丁ノウ
第八　聖人の玄義と論どる事　三十丁ノウ

因縁終

增補曆之抄大成下

十　日月蝕

沒日滅日乃事

●沒日滅日ハ天と月とのめぐりに相そなさと毎さとに。あるゆ日なりこのゆ月日のゆ二月がはりのうちてのちハうるふ月となるゆれなりこ月ともに大あくゆるゆれハうるゆ月ふこまとをちゆるゆるゆれ。古は聖人もふくゆ山日といこたまひしとを

二　日蝕月蝕日月事

●日ちくハ日のひるゆ月のうゆにおほゆれまくゆるを易に元終の悔とのべしとろなり月ちくハ月のひるゆ月日月ゆあにさゆるゆうてなるを易に彖辭にたてうい

こゝをもしるべし　こゝろをくわるひよりはいたわるひよりといふべし
ちぎわるくゝろげかこゝをといふべし
右ゝつ日ゝつ日ゝ毎ゝ日蝕月蝕ぜるハ義術の工夫
にゝつてまるべきものゝ所ゝ日月ハ蝕ぜるハ
秘伝のなゝひわゝとゝ天乃とれそ向ゝふゝ
てゝこにゝるさびゝ米ゝのゝろふゝちゝびゝてゝ
ゝこのだゝうゝとゝかゝきゝちゝゝゝゝゝ蝕のいゝと
れとゝゝむゝとれゝりゝゝ人ハゝゝと天ふなゝぞゝゝへて
のゝちゝそのゝゝうゝとゝゝくゝゝびゝてゝんいゝゝゝ

三

社日のゝす

①ちゝやゝゝじゝゝハゝ二月の中にゝちゝゝぢゝちのゝゝゝゝゝ日ハ八月よ
ちゝゝゝゝゝのゝゝゝゝ日ゝゝゝゝゝゝゝゝ一神ゝに二日ゝゝゝ田の神と

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

簑とゝらさするなり。さゝに時ぬがなにわゝびまこと
の簑簑とゝつけぶいつくしけごきゝゝゝゝ忌れ松尾
のだうぐゝれそゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ことふこの日ハ西の神をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
まつけゝゝ日なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ社日とゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ぎうに樂をなすべきものなり
又ある説に二月八月は天地の氣さだまりこれに
ゐてひがしの方薬師如来強盛の敬上をなされ
て西方弥陀上求のうてをかんがへるべきなり
いまは弥陀薬師の二仏をこゝにあつめ
るべきなれば
ひがしの方にはこの二仏をふせん
となすべきなり又名をば阿弥陀といふ
天地の氣たがへしき付るべしとなり

六 臘日のゆ

① 臘日とは我先祖をまつりそのまつりのゆる
つとめ〳〵なるべきなり夏

の代おけ太平をいのり殷の代おい潔祀といひ周の
代大蜡といふ百らと祭の代おいて名と臘と
なるべきなり臘日とは十二月
のせいふにあたる辰の日ならこの日ぞとうるとを
りもつて食とをこのまぎうたの神おうやまる
わざを祖ふすしるなり社日のまたはは民の
しるなり臘日のおこるはいかと一人もも
を万民おいてゆるぐはうのはたらきとなく
べきものなりぞとは説文廣雅などおんし
るべきなり
これまさせきんの籠篇おわくかこれと
とぐめどもとにはしるしかきるはいびるす

七 忌日のゆ

●ここは天梧星といふなり。此よりてはじめて人の忌かゝるつゝぐ日なり。第一は名は忌第二の名は帰化第三の名は天の小女第四の名は孤辰これこの日はゝびへうちはらゝくゝ。ひとこゝろ先とゝろふいるとれは。しべ〳〵ことに暦例ふんこゝろ

八

往亡日

●往亡日は天のわゝ神のはたらきゝる日ゝこのかたら神ふこゝいの名あり。第一の名は往亡第二の名は天門第三は名天後ことれなりひとゝきふにゆきゝのいきよいばるゝとひしゝ。そゝわてしらゆゝゝきは。二度しゝふゝゝゝゝゝゝゝゝ日

なりとゝゝゝゝゝゝゝ。彩攈陰陽書ふきいゝゝゝゝゝ

九

血忌日

①血忌日ゝ。梗河星乃せいなりゝ。ふゝ。此名あり。第一の名は数忌第二の名は日忌第三乃名血忌ゝれなりとゝ。日ゝゝゝゝゝゝゝゝ

四つのごとくぜんにちはつかよりはじめて月をぜんこうにのぼらにわるなり。
ぜんにちうにわるる月をぜんこうにのぼらにわるなり。
いたしもぜんにちふむしひさいとはゆえぶぜんこうにのぼらせい
ぬしこれふるいのなかりぜ。ぜ一の石ゆうさい。ぜ二
の石ぜんせいこうまなり。天上
の石うぐんそのところとしてはかこのふにちなり。
この日ちまいとの人をぜんこうにのぼらせいゆえにぐぜ
ぜんちの人をぜんこうにのぼらせいなかまをぜんこうにのぼ
をぐうりの磨仏の書民が祈ぶぜまじらうなり

十一

云翹日のすー

①云翹日をぜんこうにのぼらせいぜんにちの鬱ぐうにちなりぜ。
日どうとのぐうねとちうぐうねとちうぐうねとちう

○つく日はつる事にはしらゆるあぶさいはあるとは
しる事にはしらゆるさるとひわすそ
しるしまつるといふてもあんあんあんぐ
みはぎらふ屋さるものなり

十四 重日のゝ事

○じうにはつく日の郷ふつうづつ日なるこれまた
うさるとだらいはうさるとはをのづからは
あどうとのくすりをのもとにしべしかさわるこい
ぬるとそうぬゆへなり
右二ケ条は日どうとその侯ぬゆへなり
暦例小月くうにそその郷いうふうにうあべし

十五 函舎日のゝ事

○くるの日をそをは嚴神おほ鞍位のぼりふのがしさ
ろ日なるぼ陽はうぐるとぼ陰はあんぐるとふを
のなるぼこの日はうるびかふあるさなるぼちゆ毒うび
ちさいを陰陽書にはてうてう

十六 八専 七曜 九虎 六蛇日のゝ事

●八つとう七てう九こ六じや日はその名かを屋を
い屋ぐるぼケ条ハ入る。一郷のあく日なり

一春ハ　されえ祢　うれとのい　八つとう日なり
一夏ハ　ひれえ祢　ひれとのい　七てう日なり
一秋ハ　かりえ祢　かれとのい　九こ日なり
一冬ハ　うれえ祢　うれとのい　六ぢや日なり

右の日はうるびれるゆふ郷ゆうるうあれ。秘伝なり。

群忌隠集と見て、物をつきまゝ食べ

土 ●あし日ハ木火土金水の五行のうちどころの手文を名付てあしの日ごさぐじ。そのとものく日なりゆゑ、ふるゆゑ、もとをいひべ。ぞもく五行大義ふ見てしるべし。物ハ師函にゑべ

歳下食日のうち

子のこゝハ　ひのえのこゝ　丑のとゝハ　かのえうゝ　寅のとゝハ　ひのとのうゝ　卯のとゝハ　このえのうゝ　辰のとゝハ　ひのとのこゝ

巳のとゝハ　ひのえむしまの日　午のとゝハ　ひのとのひつじの日　未のとゝハ　かのえさるの日　申のとゝハ　ひのとのとりの日　酉のとゝハ　ひのえいぬの日　戌のとゝハ　かのとのいの日　亥のとゝハ　かのえ　祢の日

右毎祢んの歳下食日なり。天狗星といひて しぶの祢んを度づく。食べゝあふぐ土へゝぐさ と云ふ日ごこのゝ。歳下食日とゝ名付ゝ。 せけんのゝんよ。咸食とかくゝあて字なり。又 山日の名を源兎神日ともいふなり。この日ゝ

けふは四しこぶ　ぶかつさわく日なり　ナうん
ナニーね生　てうのわく　ゆふつてざ　ゆとうさ
はざうなうんを　のなるとぶ　ぶさふ　尚書暦
ふんてうう

九月　時の下食のうす

①ここれげーこさいぶかこわうひゆわびかうたうわ。
おくとうるふいしべーたぐしぶそのゆとのご　ゆハ
うづなーぶせけんのせりふわゆといとぶ
ふちうぐふ　ふうどぶちさい　尚書暦ふほぶびらう

二十　天慈日のうす

一　えせけんのこうこてどうくゆうびナ
死とかさたぐうる　日なるごの日ぶわりぶ

ひこうあつちうげんわうひはぶうやうへかゆりぶ
うちなういしやうとこうこうとうじゆーぶうく
ほ餘ほ　ふわう

廿一　石鬼毒ゆ日のうす

①石鬼毒ゆ日はせけんけこうこにぶゆうどゆ
うこうこ日なるこの毒のやうんけこうぶうりの
いふよゆくうすしぶぐかうべーこうたてゆくも
ゆうゆうぶゆうゆうべうるべうこうこうひとぶ移くぐこうこの
ゆうゆうぶーぶるけこのうりはぶうかーぶうく
磨圖よゆう

廿二　黑日のうす

●黑日ぶうすはぶうりふりらいざ四ぶ秘傳ぶうす四

つ師道とうとてきつかべし

廿三 滅門 大禍 狼藉日のこと

滅門日	酉	二	三	四	六	七	八	九	十	十一	十二
	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳
大禍日	酉	二	三	四	六	七	八	九	十	十一	十二
	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午
狼藉日	酉	二	三	四	六	七	八	九	十	十一	十二
	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子

右の大日どもいずれの若かきなとも一切の日なり。さいのかくけれるかいしづさとのあり。

その外ハ大ぶ

廿四 羅刹日のこと

①らせつ日そ。その日は富と曜こ。相剋とる日なり。こゝをまつ仏法僧ゆ。てくれて工あり。

右ハケ大日。富曜。弥陀日。ふるいをもいをとどめ。日なにおひてはかりさあく日あらこ。ぢ。そのうとをいとこ。ちやうなるわ。千支ひめ。ふたそざうはす。そうげ。ふちまうげなうんし。のせ。玄女がいろくぬ。のね剋日。辰大吉。こ。らざうハぬらくじまの。ひろう。野をかけんと。するがおくせつ。ちうを。ちうとの。といねこうなり。このぬりの大日どうとあり。の

和冠にてさぐはざれば ふくいそぼ りるべきゆへ
なくぼうろ 爾ぼうろ
六五 年齢日のるす
①日ん石日はぞの日は宿と曜こぞいわぬどる
日なわぞかぞぼぞ 数日のぞんさいせぞぞぞ
けのすとぼぞもるぼりぼ少べしぼ海いる 磨
にかしぼくぼんろ日にわぞろ時いるるぼぞさけ
ふぞろとぞるぼいひぞすなわ 若をぼんろと
いるるにぞけてぞそけのぞ矢ふぞろかん
日とぼかーてぞぞぞぬりのぼ日どわぬぼるり
とぞぞさぼひぼれぼ ぼぼふぞろ爾ぞぼ
六六 金剛峯日れるす

●こんぐふ奴日い。壌麻摩。まぐ。摸。戒ぐぞぞ
の年にりちひぐぞぞのなわ。宿曜經ふれひぞ上
若日のぼ若ぼるるぼいま日年の天文家。
これと毎けどーとせぼぼで經ふぞぼけて
ぞけのるふ日ぼぞろとぞぼぞぞなわ。余れ義ま
ふひぞく爾ぞに日をぞぞぞりちいぞるぼ爾ぼ。又
詩經形ぞれ篇の集經ぼ。戊辰庚午れ日ぞも
けぞく。剛日と若付ぞく。むまをわる若日ぞこれさ
ぞふ金剛峯日ふぞぞぼぞ陽ぞの日をいぞぞ
ろなぞ。ぞりひわやまる事なる迚
六七 ●八当日れるす 付 ま日のるす
ぞれぞね ぞのえぞぞ ぞのえぞう ひれぞのぞ

つちのえの巳　かのえうま　かのとのひつじ　つちのとのひ
右おなじく八日まい移んの日　当日なり　宿曜星経ふ
いろくこの日冥衆ことくくく天上をゆへに下界
よりいて賀花の新向なりといへり　これふうて
大唐顕徳四年　ひのえのたつ　これをいうこの一切
のかくけれこと　ふこれをいうこの日なり　いまわんたつ
宿曜経　よのなかをとりてとくれる日　右日より
てあくびをつげなふすかふしのみくくちゆる
ようくくくびをたれどもいまは日ふ　ふちひて　当
ふくこの河ちいをばくくふとふくくくらふすいあ
まわなわのくくくくるのよりかくくくおく日なりやと
くくをべきりのなわのちふまはこいくすまは

とおばくくこのふしのちくくびしてのせんふくくく
ふの日なわくくのくくくくふさくくかくんりのく

八月

一　伐日のよ

ひのえ　ひのとの　つちのえ　つちのとのう　かのえ　かのとのみ
うのえの巳　きのえうま　きのとのひつじ　ひのえい
右おくそ八日まい移んの伐日なわたくばくくこう
て上をくくをおくくくされ日なわくくくくにくく
かくね日やくくくくるものとうくくくくくくくくこ

九月

天火　北火　付赤口

①天火くくいをくくくくくくくく

うゝとまくらすちぐかうべ
赤いもゝんれまへいそ
うちぷうゝく暦例清集にうゝ

三十　○天恩日のすゝ

ゝのえね　きれとのし　ひれえゝ　ひめとのう
つちねえゝ　つちれとのう　かのえゝ　かれとのゝ
ゝのえむま　ゝれとの巳　つちのとゝ　かのえいぬ
かのとのい　ゝのえね　ゝのとの巳
ねまいねんの天ゐん日なゝぷ天ゐんぐみをとゝ
と日なるゆへふ天ゐん日といぬゝ何とゝ大吉日
なちぷゝ何なふすふしゝる日ちかゝゝんゝの
なわゐんぐゝに。ぢ天ゐん日れなゝふ。ぢちのえゝい。

ぶ墓日ぷゝ日のゝのえれハ八つゝ日ぷ西れゝうの
え祝いゝぎや日ゝぷゝれ日ふ日わふゝれそ。
天ゐん日とつゝもぷれゝ何てもんゝわゝゝとべ
きりのなちぷゝゐん日ぷゝ日ぷ西日ぷのゝのゝきあ
く日ハおいつゝ日ゝ日ぷ天ゐん日れちゝかゝ
ゝ何てゐく日のゝ。さ海ゝぶげなゝんりのなち

三十　○天赦日れす

ゝハ　ぢちのえゝれ日　裏ハきのえむまの日
秋ハ　ぢちのえゝれ日　冬ハきのえねの日
右まい年ゐんの天赦日也。通纏ふ日。天万ぢものを中
ゐいそぐてくぐを罷とゆゝれ日へゝつぷゝ上の吉日也。
万何のとぷゐとゝゝもぷ。ぢ。とゝゝぐゝ日

なりぬ。この日ハ、ふかく日ハ、ふかくわのうすしまれ。
若六月ハ、うちにこれ、ふかくとくとくそ、ふかく日ハ、
とい魚どく。天しやハ、ちくにちくぞ、ちく日のさる
ゐし。又秋の天しやハ、ちのえさるなり。申の日ハ、
万ハ、ちくとくびとくいき魚どく。秋ふなちくぞ。
ちのくれ子にわる河ハ、必いせしもとくぞ。ちくぞ。

○毋倉日ハ、

春ハ　いの日　孫の日　辰ハ　ちくれ日　うしれ日
秋ハ　ちくれ日　いぬの日　うしれ日　ひつじれ日
冬ハ　さるれ日　ちくれ日
右まい孫のでさく日なり。天ちくびれ、とくとく
まくしく。毋ふとくのぞ日なりゆ。よぶさう

日こいぬ。ちくれ日なり。ちくぞ。ちくびふかちくげ
かくんくものしゆんぞ。この日ハ、れ日の内ふ辰の日
の一ハ、ちく日なれバ、ちくぞ。げんかくけのゆとし
辰ぞ。そのちくれ九ハ、余の月よわる河ちくたくひさ
くちくちく日なりとい。毋倉日ふわくく日月ハ、れ
ひてれ、ちくれくとくしさ。右日なくぞさくのし
右三ケ日の日ぐるハ、昴のくれだくく。ゆくゆちま
けなくさ大。右日なれバ、青ハ、ちくさくくさくくに。
たくくとびくさくれなくぞ。いまぐくさ大る國ろ
勅暦ふし。上右日とちくぞ。ちくせちくとい魚どく。
くしハ、日ちくく。月ちくく日ぞ。ちくく日ぞ。沒日滅日ハ、大
わくふわひちくぞ。右日ハ、益なくぞわく日

とかうぐさなり。沛仏ふくそのぬとちとせ。
みいくびかり。右日は若と。ものどとしつくし。惡日は
わくくどくして千支おなじ生すの日ふかひくいど
右日小屬すぐさきのなり

月徳日の事

正月ハ丙の日　二月ハ壬の日　三月ハ壬の日　四月ハ庚の日
五月ハ丙の日　六月ハ壬の日　七月ハ壬の日　八月ハ庚の日
九月ハ丙の日　十月ハ壬の日　十一月ハ壬の日　十二月ハ庚の日
右毎年の月徳日惡日只天德地德家德造式ハ義と云る。
爲に右日なり。第一事小用ひて勝なり

日遊神

日遊神ハ方ひるする
① 日遊神ハ日のひるまれ結なり

きのえむしま　きのえとひのと　ひのえさるま
ひのとのとり
右四日のあいだハいもの間うまれたるにわり
はちのえいぬ　はちのとい
右二日そいもの間ハまん中にわり
はのえね　はのとし
右三日のあいだそいもの間うまれたるにわり
ふのえうし　ふのとう
右一日ハいもの間ハしのちうにわり
きのえたつ　きのとみ　ひのえしま　ひのとのひつじ
右四日のあいだハいもの間ひとつのちうにわり
はちのえさる

右一日そいなの間まんまるかわり
おなじく十六日のわいぐいそのそうふおいく。産と。
ちうぢのるなぐこうらくなかわそのなかいとぐかし。
そそつられとのるるの日ちうげのえりの日ふ
いるまぐ四十四日のわいぐいぐいぐいをるれて。
日ちうふ遊行ちうちうの内ゆふいるの内ちまいく
日遊行のとそれなるぐうぐうぐ

洗頭日のうち分ぐ水湯のうち

①洗頭日ハ　三日　四日　八日　九日　十日
十一日　十二日　十四日　十五日　十二日　十三日　十六日
十七日　なるびる　さる日　うる日　いの日　子の日
右毎月ハ洗頭日なるがしら紙わるしものいと

そ紙にうるえわる紙ふ紙用紙日ふかうる紙わるる
時日ふゆわぐる時そぐうぐうぐうぐこいるるぐえわる
ぐ月ハ正月一日ゆ水湯ゆりくゆわぐうぐ
そのかるびやまひとるるといるるぐ水ゆ桃
柳葉梶楮色なり。一紙ふぐ水ゆ毛一味
の名なるるとるるぐ

①遊梶日ハ　こしとるぐ

正五九月ハ　三の日
三七十一月ハ　二六十月ハ　こるる日
右ゆぐん日ハぐんのたまぬそそとるるそそのぐ
ぐとまそそるる日なるゆよゆぐん日こ名ぐく。
この日ぐるるとのむるるとるるぐ

てうらゆう人ぺいやまひいあぶらのうへにわらびぺいて
ぶるこしひとりしごうこうなり

四時の人神のうれ

春ハ　ひぐるとれうるふわり
夏ハ　脇にわり
秋ハ　みぐされうるにわり
冬ハ　うしふわり

毎日の人神のうれ

朝月ハ　足れたゆびふるふ　二日ハ　外踝よわり
三日ハ　うらうらふわり　四日ハ　うしにわり
五日ハ　ふちにわり　六日ハ　ふわり
七日ハ　うらうぶ　八日ハ　ぬうにわり

九日ハ　ちりふわり
十日ハ　ちりふわり
十一日ハ　ちりふわり
十二日ハ　ちりふわり
十三日ハ　ちりふわり
十四日ハ　ちりふわり
十五日ハ　ちりふわり
十六日ハ　ちりふわり
十七日ハ　つけ根よりちりの
十八日ハ　ふわり
十九日ハ　ふわり
二十日ハ　ふわり
廿一日ハ　こしれこゆびにわり
廿二日ハ　ちりふわり
廿三日ハ　ちりふわり
廿四日ハ　人さしゆびとひぢの間
廿五日ハ　人さしゆびとひぢの間
廿六日ハ　しにわり
廿七日ハ　ひぐふわり
廿八日ハ　ふわり
廿九日ハ　むりふぐ
卅日ハ　ぬつまさき

右二ケ条の人神れわるとぐるるぺやいてとい

ひべしん神といふは男とまさりこころの神
こしてそのもしわざ男れわるべしそれなで
かるべきごうとなりぬそくそうとさしやと
とすることはぬやまひとわしたましねとたをけ
じしなるどやちはふしねのうへふもいく
もるとやいとともるこさいの神どなやまうめて
ちうまちにやまひとりむしへさきのなりふく
これをいうべし

八月九月をいうべきなり
八月は火ひんなる月なれば忌とはくるとわこ
まうしやねるこちうしげんらねなりといむべし
九月はみわしき月なりちいを忌とはくるとはこゆ

ねうふ入とはくるべきものなり
右の二ケ条は月は一神人の内わわく月なり
正月は一神人のちうめなれば右月とはこがて
その様をいちうのなりぬ月九月なれば二月
なれば五月ひとのぬきうあふ神をまはこう
なりぬ神へちう唐土日本ちうかはいなりを
海の世ふいこはとはいちうこ正月九のこ月はその
分ぎんにちうくひぬ天の神地のうをめうべき
そのなりぬうこうは暴となりぬてのちこ
ちうにうべしそのかうせはおはとはいふもこと
ちはべうこと

大明日はうこのくす

大明日といつるのいまゝそのゆこくのせいとうんど。
おなじくいうしなれさうなれわ。いま日本おひそむ
さとくんのりてわそふ。大明日ハ
さのくいう　さのくいあ
さのくいう　さのとのこ　さのとのこ　さのとのこ
ひのえむま　ひのえう　ひのとう　ひのとひつじ
ひのとのうし　つちえう　つちとのとう　つちとのこ
つちのとう　つちとのこ　かのえむま　かのえいぬ
かのえう　かのとひつじ　かのとのい　かのとのい
うのくいう　うのくむま　うのくう　うのくう
うのとのう　うのとのこ　うのとのい　うのとのい

花大明日とうかだ明日ハ。時明日ハ。ひのとのとか
つとこいひなうつわまりさくだ明日ハ。そうり日。
めり日ハつとう。ヒてうれこなくれ大わく日ハわ
うつふうこさうわなうさ大吉日なうこ。ふとを
うれわやまうとなうぞうこ大明日ハうさ。ふとく
さうれ吉日ハぞうくさうふとなくさうふとの日ど
つとこいうもうもいうさうぶううとなうこ。二日の明日。
かうふうれ一日ハぞ大明日ハうくあれどなうれ。世ど
とわんどうふかうこうさのハすくかくうろうか
うりのハ花ぞ。だくハもくれくだくハかうり。
吉日もすくかくわく明日ハおうぞ。おうそうれ
のうのかうきうくぞうさ抱ハまれわてぞうさ

このおほきなるひのくどやもろはかいけこ
わるらべられつひいぶくたるとしたるべ。をかしかるく。
だくうとみしかなはざるこゝぢぶいかれてわや
まちとなるこ時明代男ふ成ーるのこなんとき
せーじろうこふわるくるくわ時をひとへよわるこはに
こふいるくるすが天をんゑ家れさいんなちぢじ
てがとれなるこ日をりちゆるんへいそのあとかるば
をるこ子孫とをいけぶをーるこはびはぶ火なんを
いかんふわるくさいるひとうーないぶこるとひを。
あつ代間よをるじぶるこものならとそぐいのちと
うなんふ富さるんるくうおにるるびとはま
じとをるんへおるこはくしじべーごきけるか。

るこるーとるけてうれたるるびふわるくべびふわるくべ
ふ。あにたるくるりまりのたるわわやしじるまれ
右の日どるとのかるぶわまるれ各月わるといーど
もわるひいたぐしるこ純文とんどぶるひをる
だうるとをわるきまへざるなるけてぶまるこにるる
さびたるをたるるーぶたるべるるとくるびるとする
ゆんなるわぶるく智者のをーへをまけるこ

四十五

暦術天ふたぐいざるこるり

わるるんるるるくるくぶ義法とるけて天をるるん
ふいけを表秋れたぐいざるいぶるーぐざなるるること
い亀るる。天るのべけるくぶるーざれべぶんぬんれをの
拍ぶるるるるるるんるぐ。ぶ一日二日ハをるーら

ぐ[illegible]わらといぬ[illegible]くぼのなげこみちうこん。
氣のわりうさうしらさし[illegible]しぼうきまくぐこれるのなれ
ば天のめぐりとぐうこれうんよわうをせそうれけ
ぐしたたぐこびとはぐ[illegible]ぐかおりひちぐわぐく
とりふぐうくくりうくく
明月の鉄とうん所べし
三ケ月ふバ十四夜代月乃ぐはるうむしい
まだうえざ所まをとろ
演よぐかひとりうりわん毎年三月三日な
ぐ[illegible]その日かうぐざうとろべし

四十三

日代うくわ
中道のう

わうくうくいうくぐ天ハうろ川のうのをうこ
ぶりうこうかうこなれぐをくもわぜんりを作て
わくなくぐきうぐかわくぐ日くりねうのわうそのの
日をちゆうくハハりさ
ハさうにうろくどくりう
のをかうくぐくをあうくぐうをのなれぐぐかうぐ
おうう内うぐうぐ角をほうりかとこうを。
あハりのとうかうくぐくくくくくくを一なうも
のなれたきうとかうりうくうきうぐ角川てた
くうをおばうううりうぐとうをうわうぐくきこの
ぐなうこうぐハくりうりうりうりうりうぐそぐ
中ひうとうなうれハ日の干支ふりうう

ひ月かさなりて編なりと雖日とゝのはけれ
ども日月よ和して率クなる紙吉日とさだ
むべしいろ〳〵の日なり先の日を
不及日なり中ときはうの日をかるる吉日
なり中ゝ入いろ〳〵正月とひとつはこ三月三陽にして
かさなりのくもとぐなるをもつてなり二月八中
と八月の中かぶこうの祝をまはるといふなる
ひるの内わかゝくしてさしくなくわいくれ
くもかぶんは中とをれだなりゝいろく
人は形ふみすぐるとはいかをれのやまひの紙
うけふをくなるをしはゝ火動のやまひをうく
たゞふとゝ火をうるゝんなるゝはやまひをる

なりみいろく同じ天地の氣をうけうる間よ
りうるをくるを死りゝふさるはひのるをり
人をたるをるをるをわるをゝのるをこかふぐく
わうかゝこうを人わりゝかくはゝくく
のかるをわる同じ日の間小さいをひを祝をを
日わりゝかさうひをわるをふる悪日わりゝ天地ひるけて
るをゝのるをゝ分拍うるわゝの二月をのが間るるか
ゝ中ををぶるるものうるかわくなるををるべゝ

吉凶不二のくるをゝ

一わるゝをるをるをいるをゝくはゝるをゝ吉わく
不二のぶるをなりゝ日のるをいるをゝ
ゝゝをるをるをるをゝ

めてくいそくぞ善悪不二とやらんハ仏のそしへ
なしぞいまごまかるなり
ひそにこれをわんずるふ大極の一切の理とこころぞ善
えらくぞのばくそなの果よいろはとこころぞ善
悪不二といふ色わされば大極のいあ〳〵ハ空りか
くぶしなくそくそくわうすれわるかし。
是非好失善悪善樂を。虚空の中ーうぶ
ぜんふいでくわそれ虚空の一理をさげわうと
さけ善わく不二なりとさくわうそのなりとさ
ぶはそのことをとをしげきまへどーて善悪
不二とのこころはくぱなもみるまいはわ
らびてかるめぐみふしがけのとへふを

かるさぶはをのなりぞとそをくれ上よお
ひくぞのく一理をそのかぶふぐよ
うろりの理をのうろなりたくハは看いまはけり
うをとおこるの理民いうけうをそのの理
神いこの世とまをりうをのの理がけいらい世
とたうけうるの理しぞをとくべとをけど
くいのらをうの理なりけわけくぶあいさしこ
理し善日ハうこうをうぶ悪日ハうこうを
をうぶと理うくのごくくそのうをそのの理
つまくなる而ハ善なりぞそのの理ふたぶところ
ハわくなりぞよわくみちなりというをしぞうわ
不二とこころくてぞそりらいんとぞうをこうぞ

ゆくもわくだうなりそれかけハこの界をこゝろの
内ふかさゝくゝ西じやうとさいごゝ。衆生人天地の
内をてのうちにまどゝてゝ。ふつゝ為をもてごとゝ。ちうの
よゝまおゝなるをゝ。こゝろにてゝ。あゝ一式
わゝゝゝゝゝゝ。海ぜんまたゝ仏
とゝゝゝてゝ。本をゝゝゝゝゝ。
てゝ海をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ

仁者不仁者君子小人のかゝるとこゝろ。
わるけゝ一佛一神なれば天地の間よ若無代二
仏なしなふよりくゝ方ばかりをわるうんと
いふこゝろくゝ一仏一神のかゝふ地ごくわる。
極らくわるゝ人皆地ごくふおちんとうまれくく。
極らくふ往生せんるをいの由なれ方をゝ
といふしふさゝられたるとたゝぐちわるゝんすを
とゝそわされ方とゝえゝさいはひゝんすを
称ふものなりゝ理ふらゝ人ハ鬼門う
大将軍の方をもしくゝごくのこゝろゝてのちよ
くたりひわゝもゝべし

四五

星下向のうゝ分氣の事

わるゝ人ゝゝくゝ。醫家の説とゝくにたゝ代
ゝさぶ。日とたゝもゝぶ由といふもゝそいがいたゝ代
ゝもゝ有なゝゝ。天ゝゝ代ゝ代ゝ人の家を
じよやゝゝ付ゝゝ代ゝゝ代ゝゝもひゝゝとたゝるゝさぶ代ゝ
その氣ゝもなゝゝりのゝゝのゝゝゝ下ゝて方ゝゝ
ぶ代ゝゝゝゝゝゝて日ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆうとゞまりにうけてさうなるゆえに
みな氣こうけて木ゝなるゆえ木は氣より出ずるこゝの
ひとつのさい氣金を生ず。金の
氣うるおゝを生じ又いろ〳〵あり。木は天地の氣あ
けうけて人ゝなるゆえ父母の氣あけて人こ
なるゆえそれに人となりてはのをのゆいりのにうけて。
男とやゝ女のふりのあるゆえ人飲食をとそ
のりのをくにあらはかわるゝくを
をの付飲食の氣力をなるゆえ人ゝ陽ひるゝ一万三千
五百度のいきのあるゆえ陰陽の氣をひく
いきゆくいきをとそをいつゝのなり。根本にうけさ
る氣のうゝ忘よゝ又陰陽の氣をきゝにうけかさある

かうけて生はめでうゝきゝ根本の氣色
はそんをゝ附いやまひとりゝひそのの氣はくゝる時い。
のちをうゝなゝ根本の氣はゝさざるあるゝさは陰
陽の氣めづらゝ。そのの氣ゝ人てのちは陰陽の
氣めづゝゝふゝけてなゝれゝる本は生のの
氣りゝかせびゝづゝつゝさてはをゝ大ゝ氣
ひとゝすゝをとりゝくゝ見ゝ
精氣色ゝうせゝゝゝは生のりとなゝとゝるべ
くゝいゝくゝ精のゝのゝいゝくゝ息のゝゝくゝ。
陰中忘陽の息をゝくにゝけてそのゝゝこゝゝ
ゝのゝなゝゝ表のゝゝゝ息のゝゝゝれゝゝ。
陽中へ陽のいゝをゝくゝふゝけてそのゝゝひゝゝ

ゆへなりかくのごとくぷげうてくいさのえゆゑと
えへざるとへぷのさしてかいきふるとをきりて
陽陽の氣つのふるえへざるすとぷをたべしてえいて
くとびい陽陽の氣よりかけて天よりいろ魚は
みの氣ふうんで潮よおぐるぷいてくぷへりのいを
をろといえはぷげりくを氣を清淨みて天の清
淨の氣とをんをなりぷ祇をまたるい氣をまつろ
なり餓とををかい氣ををるかろなりををを天
地のわいぐにわくゆるの陽陽の氣をかくまびを
いるなくぷへをぐくをの間し氣ををるくをの
なしぷいをくかるで天性をうけをくへをるを
中にかくをりのわりぷかくこ

ををのい濤う氣ををるゆへをるかて
りのいおごをる氣をををゆへなりぷいをく天を
わやくを星わくいをぷかくをどを地震のするは
國の氣をぐるにをるをて天の氣をををおをぐをを
しなりぷをを風をいるををい鱗鱗来をぷを
い獅子のをるはぷをの氣をぐをををけをく天氣
ををおたぐくををををなりぷいをく氣い類にを
てわいをるゆを惡人の氣をいぷをををひの氣をを
ををぷを惡人の氣をはぷををををひの氣ををを
ぷををを本をぷをを氣やどを樹ををかをぐを
氣やどをぐをぷ當をれ惡人のをををなり

みいろく人間のやまひとうけて。諸云といふ所。
氣をうけて人の氣ふくをすゆへなり。海とのこと
て氣のみぐるいの海の氣へくの人の氣とりよせ
みぐるゆへなり。ゆへいろく。ろの人にはくすわ。
ろくこころもはく。別ろもはくはいそのありさぐる
ふしぞてわいろふ。ろのかろいはろ
はくるなり。ぐ氣のこと人氣よりこをとゆふ
はくろく人ろふのやまひ。ぐ氣のこるろ
ひろなわ。さて天ろわ星ぐはくく人の家門よりの
ろはいそのひろをふし。そてわいふ。ろさとりの
かろいさくはくぐ。氣かこをはてやろゆ
よそのれかろはわろはくはわろ。月にわるるあ。

かろのなるをさいろひとして。微藉をろ人へく
そのろろかろぬくろこをひなるとふくこ
おそろべしぱくしぐ。

四

四をえろびて德をろる事
わろ人ろくいろく。右日面白をろこびてわ
ろかをとさいろひよりろのろ人へもおそろにと
ざろひよわふけしろこもなくく曆をあにろ
ぐてろかひらんやをるふし。四をろぬ人へし。
ふろにさいろひよわろかくされバ日をろ
ひて益わろをいまぐ人をろふ。ろくいを
く。無人しさろろをわろぐ右人へしおろろをわ
ろとぷろく天をとのろぐて。富をなる人わろ。

そく神酒とおそれどし。貧窮なる人へ恵人へ
うつと。戸ごとにとのうて。貧きたりうとけれ
ばうる大本のてくし。高人へのおそうつるに神酒とお
そうる人の貧窮なるはたの菓地のやうよ
萌がごとく。天ひろきゆへ。高恵とふるこ
のりうとうとうふやうにわるべばうるとつて
のらぬくわうつるものたりぬとうるぬの徳又
くれごとく

神とこのうて利生とうるる
わるへうるくいくく。おうそへ笑那ふわうこと
かうぐくいのうそ利生とうるわうぬうし
なるわうぬのこうしぬわうれぐるはなふゆへぐ

とうあ。とうくいうくぬのひうるといふはうとうとく
ねりわうといへども。高の宮ハうへぐくぬき
うるうといやまひといやと神わうとうぐ。
やまひのひうくこうハおうるうぐくぬ神酒ハ利生あ
らうぐなわうとうへども。なりうるうとうぐ
なくぬいうくぬ彩とふうんでうすうこうわうとふいう
らうんとする河ぬのひうるうまうとうるうるうや。
ようとひうくやまひうるうさ河ぬうくうるうとし
こうとうやうるうすうるうやうわうぬやうるうくう
つうるうさ河ぬうやまうるうくうくう神酒といのる
人ぬ利生とうぐとこうるうるうなうぬこれうるうぐぬ
ざぬしくうるうなうと

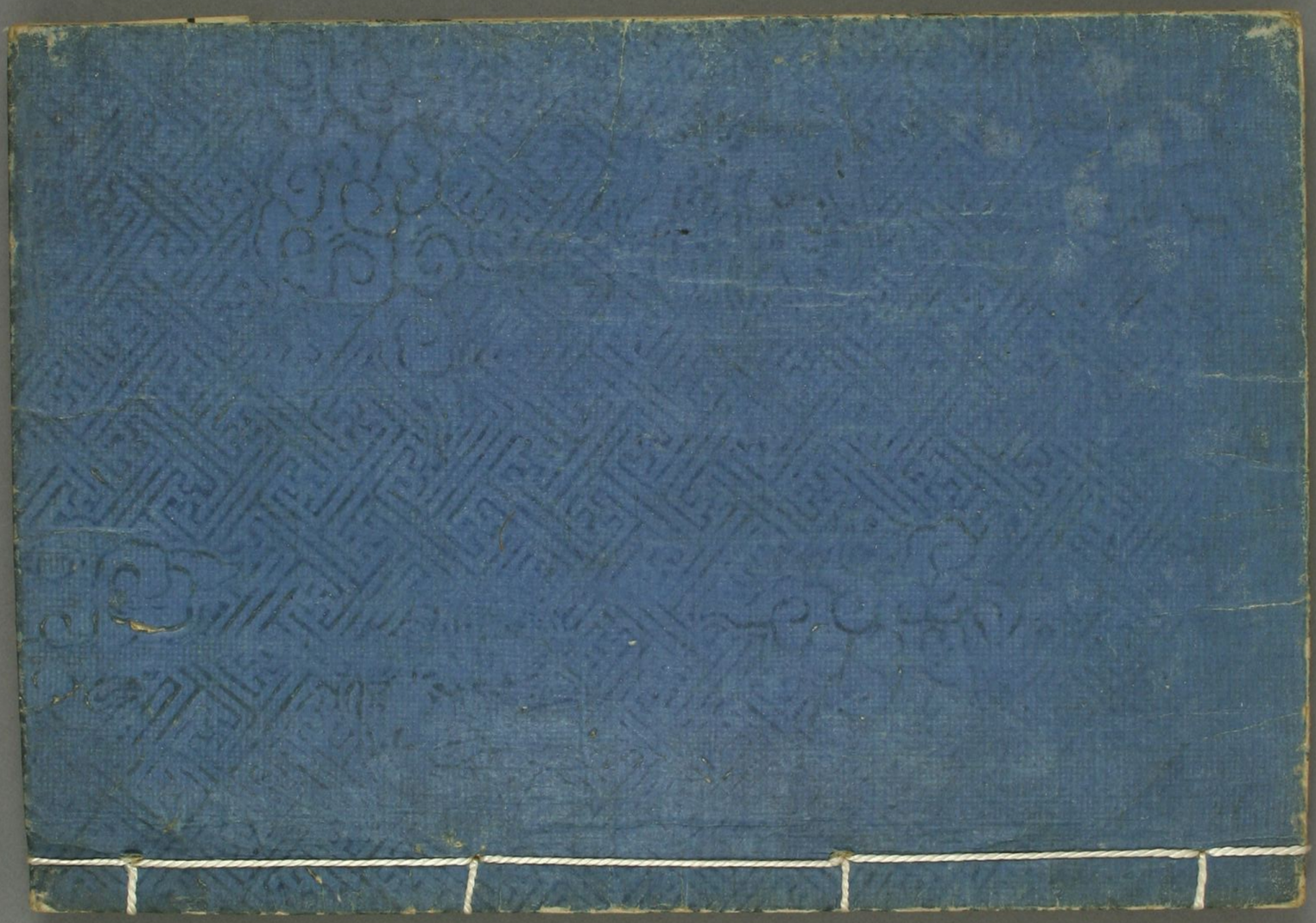
罪人のことを論ずる

ある人へ問ていはく。ぜんを天に得るはばいかゞ
ところなしゝやいなるのわけ。ぜんをつくるものも
つゞけて。ぜんをつくるやまいて天より罪をうる。何
ゆへぞ。答て云。ぜんといふものは。飛礼なれば。ぜんをつくるわ
利生をうるべきゆへなり。ぜんをつくるやまひて。ぜんをつくる
時。そのいのちをゆへなり。ぜんの法のいづるのわ
ざとういのうんやうのはいまぎれつまづくるとなり。
こゝをいてくるぞくをうるゆへなり。
どくとけをうるとのこゝろ。ぜんのこゝろ。
どうるのまことなれば。どくをけを
くうるとをうるのこゝろ。

をうるとは。ぜんの法利生わるゝにしてつゞ
めるさいのしるし。益なり。ぜんをつくるゆへ。若代命
ふそうして時教さのこゝろ。免されざるよい罪のかう
こゝろにうけて。ぜんをつくるゆへ。一説よつゝを天よ
ぜんをつくるとは。ぜんをつくるとは。
ののちとはぞかわやまいなり。上下の神祇よい
よいのちとやくまよう。ぜんをつくるやうか天
業なりといふこゝの理まこと。ぜんをつくるとは。
であんどうふのくいをやくはたらき。
罪いはやもく。りいうけどくをいわざる
ゆへはちうびの罪わいくいのゆへはちうびのい

てゝ[illegible]なるこゝろ。天の命とやいつべき。[illegible]
あやまりなくぞのがれ天
命ゆきまくなるいそれひとつは賢人ゆゑにあ
ることわりとい[illegible]も。神道なしばかりに
いそぢ理いるゐ時うれとゝるべ
それ天地ひらけてのち[illegible]いまゝへ
ゐ世万代のを忘の[illegible]ゐ神
のめぐみほさざるを人の世ちくこれ[illegible]
廢して[illegible]ゐるにゝ[illegible]
そゝゆきとゞまり。[illegible]
わをざるに[illegible]
をの上しわゝ[illegible]

[illegible]
なるべく地久しきもるこれ神のめぐみ
その日本を神国[illegible]
りしなり

古御門殿支配　佐藤和泉校考

大阪　河内屋喜兵衛
書房　河内屋和助
堺筋清水町　伊豫屋善兵衛